

Image Forum Festival 2023

# Gathering Clouds

映像祭の祭典

映像祭の祭典

EXPERIMENTAL FILM / VIDEO

37th

# IMAGE FORUM FESTIVAL

www.imageforumfestival.com

© 2023 Image Forum Festival 2023

主催] イメージフォーラム [共催] ゲーテ・インスティトゥート東京 | SHIBUYA SKY (渋谷スカイ) | Feb gallery Tokyo

[協賛] 株式会社ガレオ出版 [助成] 芸術文化振興基金 [協力] オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム | 渋谷東急REIホテル [後援] ヘルギー大使館 | スイス大使館

SHIBUYA SKY (渋谷スカイ)  
01/26 [TH] - 01/28 [SAT]

Feb gallery Tokyo  
01/29 [SAT] - 01/30 [SUN]

Goethe-Institut Tokyo  
01/31 [SAT] - 02/02 [TUE]

Theatre Image Forum  
02/03 [SAT] - 02/09 [FRI]

# East Asian Experimental Competition

「東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション」は日本、中国、香港、台湾、韓国、東アジア地域を対象とした公募部門であり、同地域出身または在住の作家による2022年以降に制作された作品を対象としています。本年は400作品の応募があり、一次審査、二次審査を経て東アジアの「今」を映し出す注目作品がノミネートされました。また、本コンペティションは新しい才能を発掘する場であるとともに、ベテランと新進作家が互いに賞を競う場でもあります。最終審査は会期中に行われ、10月6日にシアター・イメージフォーラムで行われる授賞式で入賞6作品と観客賞を発表します。

## A East Asian Experimental Competition 1

5 films | 85 min. | **IF** 30th Sep. | 13:00 **IF** 5th Oct. | 18:30

### I stitch my skin to the ground Japan

● USAMI Nao / digital / 22min. / 2023

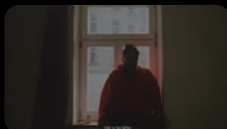
ある若い女性を模したキャラクターが、3DCGで構築された世界の中を進んでいく。地下鉄の駅の構内に足を踏み入れると、暗がりから何者かが現れ、主人公の身体を犯す。幾度となく繰り返される悪夢のようなシークエンス。そして主人公は……。作者自らプレイする2つの自作ゲーム画面のキャプチャから、綿密に編み上げられた一編。



### ok, you are gone. Oct. 05 2022 Taiwan | Netherlands

● TSENG Yu Chin / digital / 10min. / 2022

本作品は映像による弔辞だ。年下のいとこが亡くなった。作者は窓枠に腰かけ、訃々と語る。母から訃報を聞いてしばらくは呆然としていたこと、亡くなったペットのことでドキュメンタリーへの作り方を問われて返答しなかったこと——。ワンショットで撮られた逆光の画面は哀惜に満ち、いつしか何も見えない空間へと昇華していく。



### The Stream XII-II Japan

● SAKURAI Hiroya / digital / 5min. / 2022

水流に踊るようになびく藻、ダイナミックに沸き起こる雲、風に揺れる広大な草原——。季節は移る、枯れた草を多くの人たちが燃やしていく。風に煽られた煙と炎が立ち昇る草原は壮観だ。水路撮影やドローン空撮などによって、自然の躍動感と美しさを凝縮した本作品は、作者が2011年から始めたシリーズの最新作。



### Confessional Somnium China | Japan

● SHI Shengxue / digital / 4min. / 2022

「乳房の中に何かが生え、いつもかすかに痛みを感じている——」。検査をすると乳腺増殖症だった。まるで乳房の中で「石」が増殖するような痛さ。本作品は、作者がこれまでに苦しんできた女性としてのエピソードを5章に分けて「告白」する淡いタッチの手描きアニメーション。なぜ女性の身体は出産を運命づけられているのか？



### No changes have taken in our life China

● XU Jingwei / digital / 44min. / 2022

音楽大学を卒業後、就職に失敗した主人公は故郷に帰る、悶々とした日々を送っている。彼は大型音楽器、スピーカーを抱えて家を出るが……。町も主役を演じているかのように精緻に描かれた背景が目を引き、不穏な空気の流れる夢のような風景の中で、大きな楽器と共に退屈な日常を送る青年の姿に人生の不条理が投影される。



## B East Asian Experimental Competition 2

5 films | 80 min. | **IF** 30th Sep. | 15:30 **IF** 5th Oct. | 21:00

### Juxtaposed LAND Japan

● ALIMO / digital / 8min. / 2023

作者が見た映画や写真、詩や小説、個人的な記憶からインスパイアされ、制作されたドローイング・アニメーションと、文学作品や街の落書きなどから引用したテキストが交互に配置されることで、観客の中でそれぞれが呼応し即興的に物語を生み出す。エストニアと日本を拠点に活動する作者による、無国籍的な作風が魅力のアニメーションのタブロー。



### let me tell you a secret China | US

● ZHAO Yanbin / digital / 5min. / 2022

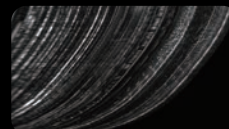
森の中。木に吊るされたいくつもの円盤形の鏡が揺れ動き、回転している。そこに書かれた韓国語と中国語の文字。地に影をつくり、そこに置かれた鏡もまた森を映す。そして、二人の人物は互いの掌に指で文字を書き、唇に鏡を当て囁き合い、互いの唇の動きを映し出す。言語の壁を密やかに乗り越えようとするかのよう——。



### Nachtmusik Japan

● HOMUTA Chihiro / digital / 22min. / 2023

下から上へゆっくりとスクロールし続ける黒の画面に、星のように輝く白い波形。虫や鳥の鳴き声のように聞こえる音は、すべてその波形から発せられる電子音だ。やがて波形は具象的な像へと変容し……。音の周波数を視覚化するスペクトログラムと呼ばれる技術を援用した自作プログラムによって、「夜の音楽」を生みだせる果敢な試み。



### STRAW China | Japan

● LIU Mingcheng / digital / 8min. / 2022

カウンターの前には線画がついた小さな舞台がある風変わりなレストラン。ヒゲもじやの男はストローで飲み物を飲んでいる。メニューを手に取り、開くと中には時計のような円盤が入っていて、男はその針を回す——。いつしかストローは長くなり、さらには筒のような太さになる。太くなったストローで何を飲み干そうというのか？



### An Asian Ghost Story China | Netherlands

● Bo WANG / digital / 37min. / 2023

冒頭で歴史に翻弄されたヒット曲「向日葵再来」と髪に毛についての怪談話が語られる。戦後アジアの工業発展に大きな役割を果たした「かつら」に着目したユニークなドキュメンタリーだ。毛髪供給国であった中国との窓口である香港を舞台に、米国による「共産主義者の毛髪」禁輸の経緯など、冷戦下の隠された歴史が姿を現す。



## C East Asian Experimental Competition 3

5 films | 87 min. | **IF** 30th Sep. | 18:30 **IF** 5th Oct. | 15:30

### Tunnel Wandering China | Japan

● LI Zehao / digital / 11min. / 2023

トンネルをさまよって歩き進んだ先に現れた扉の前に女性が立っている。「私」の問いかけには曖昧な返答が返ってくるだけだ。「私」は目覚めているのか、まだ夢の中なのか。サイアノタイプを駆使し、青色で描かれた蛇口、水、鳥、昆虫など、帆布に描かれた様々なモチーフが浮かび上がっては消えていく幻想的なアニメーション作品。



### Again the Ants Reincarnate Taiwan

● Adiong LU / digital / 24min. / 2022

2021年秋。世界では新型コロナウイルスが蔓延する中、台北の南東、テロの犠牲者が眠る六張犁の墓地には静けさが広がっている。墓を掘る男、頭の無い鶏、三つ足の犬——。モノローグを背景に現れるこれらは夢か現か幻か？ 画面越しに静寂が伝播するようなモノクロームの映像が語る、繁栄の歴史に隠された生命の物語。



### The Nighthawk Is Not a Hawk China | Japan

● WANG Junjie / digital / 9min. / 2022

宮沢賢治の「よだかの星」を原作としたドローイング・アニメーション。木の枝が「よだか」にメタモルフォーゼする冒頭は印象的だ。よだかは醜く、他の鳥からは嫌われ、鷹からは改名を迫られる——。原作のエピソードを丁寧に映像化する一方、原作にはないセリフも加え、作者独自の哀愁に満ちた「よだか」を造形している。



### The Eyeball Person Japan

● MURAOKA Yuri / digital / 12min. / 2023

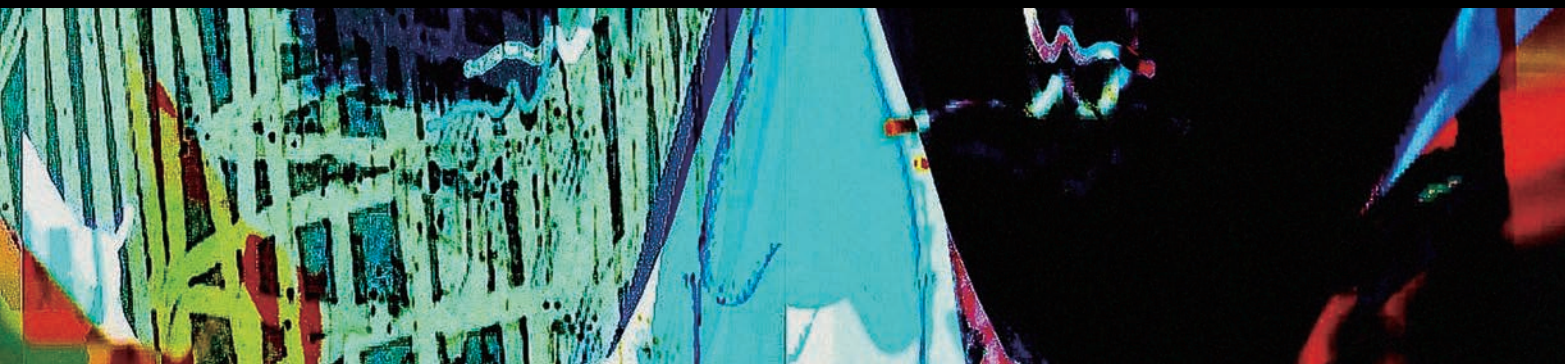
電車に座るパイオリンを持ったセーラー服姿の「私」。向かいに座った男が、両脚を少しずつ広げた「私」の股の間を凝視する。すると股の奥に「向日葵の花」が咲くのだ——。同タイトルの作者自身の詩があり、その言葉が全編を紡ぐ。ランゲの「花の歌」の調べに乗って、花を咲かせていく向日葵のシーンは感動的だ。



### The shooters Korea

● YANG Jihoon / digital / 31min. / 2022

1948年に起きた「済州島4・3事件」。国による島民虐殺事件だった。作者は祖父が被害者だったことを知り、カメラを持って祖父の元に通う。酒を飲み、つまみを食べ、少しずつ祖父は身に起きたことを語り始める。父親の遺体と別れ、洞窟に身を潜めた16歳の祖父。そして、自身が討伐隊にも加わったことを話し始めるのだ——。



## 最終審査員



遠藤麻衣子  
映画監督 | アーティスト

保坂健二郎  
滋賀県立美術館ディレクター [院長]

マーク・トスカーノ  
キュレーター | 映画保存家  
アカデミー・フィルム・アーカイブ

## D East Asian Experimental Competition 4

5 films | 85 min. **IF** 1st Oct. | 13:00 **IF** 4th Oct. | 15:30

### I Am a Horse Korea

●IM Chaerin / digital / 8min. / 2022  
胎夢(テモン)——韓国では妊娠の兆候、生まれてくる赤ん坊の性別や性格、将来の運命などを暗示する予知夢のことをこう言う。作者の母が見た自分と双子の妹の胎夢は野性の馬だった。本作品はその胎夢にインスパイアされたドローイング・アニメーション。想像力豊かに活写された太い墨の筆致が力強く乱舞する。



### Brilliant A Korea | US

●YoungEun KIM / digital / 17min. / 2022  
ある浜辺にピアノが流れ着く。ロープがくくりつけられたピアノは調律を施すために険しい山道を越え作業場へと運ばれて行く。20世紀初頭に韓国に持ち込まれたピアノの搬入過程を映像で再現。ピアノ調律のピッチ「A」の周波数440Hzが現代の多くの楽器の調律に使われるようになったその歴史をモノログにより紐解く。



### Who owns the story? Japan | Germany

●KUNIMOTO Takashi / 30min. / 2023  
作者が移住先のドイツで出会ったポーランド人男性ロベルトは路上で生活している。作者は何度も足を運び交流を深めるが、やがてロベルトはどこかへと姿を消してしまう。作者とロベルト、そして映画を観る観客の「居場所」についての示唆に富んだ日記映画のドキュメンタリー。IFF2019で上映された「ロベルト」の続編。



### Shape of the Elephant China | Japan

●Sam KUWA / digital / 8min. / 2023  
ある日突如として少年の家に住み着いた象。しかし大人にはその姿は見えないようだ。思春期の子どもの「性」に対する感情の変化と、それを見て見ぬ振りをする大人とのディスコミュニケーションを4つのエピソードで構成したドローイング・アニメーション。ことわざ「部屋の中の象」をモチーフにカラフルかつポップに展開する。



### Obscured Visions Japan

●SHIBATA Hina / digital / 22min. / 2023  
一日中自ら光を放っているが、日没後になって初めてその光を見ることができると言うヤコウタケ。作者は、その生態から暗闇の中でしか現れない「映画」に思いを馳せ、明かりのない森の中、薄暗くなった夕暮れから深夜にかけて「光」の採集を試みる——。照明を抑えた丹念で静謐な作画を通して、「映画とは何か」を問う。



## G East Asian Experimental Competition 7

1 film [Installation] **IF** 30th Sep. - 1st Oct. | 12:30-20:00

### LETHE Japan

●GOSHIMA Kazuhiro / digital / 21min. / 2023  
視覚や映像の原理を応用した作品を手掛ける五島一浩による3D映画作品の新作。彼の3D作品は現実の再現や誇張にとどまらず、現実には体験できない映像効果を生み出すのが特徴的だが、本作も右眼で夜、左眼で昼を見ることが出来るという大胆な発想で制作されている。時間のズレを立体的にするという新たな3D表現が新鮮な驚きをもたらす。  
\* Admission Free

## E East Asian Experimental Competition 5

5 films | 79 min. **IF** 1st Oct. | 15:30 **IF** 4th Oct. | 18:30

### Belong China | Japan

●CHEN SHUANG / digital / 10min. / 2022  
モンゴルの草原に建つゲルの中で民族衣装を身に纏った少女は母に言う。「明日、お父さんを捜しに日本に行く」。少女は父親に会ったことがなかった。恐山に行き、そこで謎の女に導かれるように父親に会う。父親は縄で縛られた柱時計を抱え、学生服姿であった——。これは夢なのか？ 寺山修司の表象が散りばめられた異色作。



### Sewing Love China | Japan

●XU Yuan / digital / 9min. / 2023  
ある孤独な男のもとに、ある女が偶然に逃げ込んでくる。二人は運命的な出会いを果たし、愛を育んでいくのだが……。自己愛や独占欲といった愛のしがらみにつまわる物語が、具象性と抽象性を自由に行き来するドローイング・アニメーションならではの表現によって、ノンストップで展開される。新進作家による力強い意欲作。



### Delivery Dancer's Sphere Korea

●Ayoung KIM / digital / 26min. / 2023  
主人公は宅配サービス「デリバリー・ダンサー」の配達人。彼女は毎日、ネオン瞬く近未来のソウルをバイクで疾走する。迷宮のような街の中、もう一人の自分と出会った彼女のアイデンティティは次第に崩れていく——。多様なデジタル表現を用いビジュアル・アーティストとしても活動する作者による、視覚的刺激に富んだ最新作。



### my mother Japan

●TAKEHARA Yu / digital / 5min. / 2022  
実写とアニメーションの合成作品。落下するイメージや車の前進ショットなどが実写で描写され、そこに赤ん坊や子どもの姿などが手描きの線画で重ねられる。ユニットバスでシャワーを浴びる、その排水口から覗く謎の目——。意表をつくショットが、赤ん坊を抱いた母のイメージに向けて、目にも止まらぬ速さで展開される。



### Spilliaert Japan | Belgium

●Lisa SPILLIAERT / digital / 29min. / 2023  
ベルギーの象徴主義画家、レオン・スピリアールト(1881-1946)。自分がアーティストになったのはその血脈のせいなのか？ 『N・P』のリス・スピリアールトが、古い家系図を掘りかえし、美術史家との面談やDNA鑑定を駆使して画家と自分の関係を解き明かす。ヒップホップのリズムに乗せてラップで物語るメタ・セルフ・ミュージカル・ドキュメンタリー。



大賞 / 1点 賞金30万円+賞状

寺山修司賞 / 1点 賞金10万円+賞状

SHIBUYA SKY賞 / 1点 賞金10万円+賞状

優秀賞 / 3点 賞金3万円+賞状

観客賞 / 1点 賞状

## F East Asian Experimental Competition 6

6 films | 79 min. **IF** 1st Oct. | 18:30 **IF** 4th Oct. | 21:00

### Teetering Graphite Taiwan | US

●Cherlyn Hsing-Hsin LIU / digital / 13min. / 2022  
「母さん、僕のこと憶えてる？」。優しい口調で、何度も繰り返される質問。母からの返答ははきりしない。母親の薄れつつある記憶に呼応するように、白黒の16ミリフィルムで撮影された周囲の山々や河の風景は、多重露光やフォーカスアウトで滲んでいる。替え難い、失われていく瞬間を、愛おむカメラで捉えたポートレート。



### ABITA Japan

●nakice (OKUNO Miwa FUJISHIRO Yohei) / digital / 20min. / 2022  
ゴミが浮かぶ川面から一転、居間が映し出される。襖が開き、女が布団から起き上がる。そしてまた一転。広い空室で女が椅子を床に押し付けるようにギーギーと押す。日常と非日常のカットバック。やがて舞台は広い空室に——。ドラム缶やバスタブなどのモノとダンサーがないまぜになって展開する実験的身体表現作品。



### The Perfect Human China | US

●Lilan Yang / digital / 13min. / 2023  
ヨルゲン・レスの“The Perfect Human”(1967)は、擬似科学映画的手法を使い「Perfect Human=完璧な人間」とは何か？ という哲学的問いを投げかける13分のカルト映画。その映画のフタージを機械学習で読み込み、さらにアナログ印刷技術で出力することで、本作品は印刷メディアからAIの時代をつなぐ「完璧な人間」のアーキタイプを彫り出そうとする。



### fur China | US

●Zhen LI / digital / 7min. / 2022  
片思いの感情表現なのだろうか。教室の前の席に座る男子に向けて後ろに座る女子が指を這わせる。男子が振り向くと、サッと手を引っ込める女子。窓から身を乗り出して男子と並んで月を見ていると、月からは細い糸のようなものが落ちてくる——。心的情景が次々と展開される手描きアニメーションだが、実写シーンにも注目！



### ライカワアツ laikawa.?: Japan

●NOSE Daisuke / digital / 2min. / 2023  
穏やかな陽光が降り注ぐ芝生の上で、ひとり黙々とベースの練習をしている人物。とぼけたベースの音階とともに聞こえてくるのは、彼を取り囲む自然音だ。タイトルは「Like A Work」という言葉の発音をカタカナ表記したもの。90年代末から個人制作による映像作品を手掛けてきた映像作家・能瀬大助による、2023年の軽やかな新作。



### Howling Japan

●KAWAZOE Aya / digital / 24min. / 2022  
弟の死に顔に自分自身の死を感じた主人公は、自己の存在の不確かさへと思いを深めていく。IFF2011で大賞を受賞した川添彩の最新作で、内田百閒の短編小説「とおぼえ」と「冥途」から着想している。記憶と現実を行き来するように進む物語とフィルム撮影の光のゆらめきの中に生と死のあわいを表出しようとした野心作。



# Experimental Panorama

## H Gathering Clouds Flim in Shelter 2023

助成—公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 [東京芸術文化創造発信助成]



## H1 Myanmar "Lights from the Underground"

6 films | 108 min. GI 30th Sep. | 11:00 GI 1st Oct. | 13:30

Curator Moe Myat May Zarchi [3-ACT]

クーデター後の戒厳令の外出制限下、ミャンマーのZ世代がアンダーグラウンドで個人映画の潮流を生み出そうとしている。ミャンマーから生まれる新しい映像を紹介。

2022年、ミャンマーと日本間でオンラインの映画制作ワークショップが行われた。外出が制限され、人が集まる

ことが難しいミャンマーでいかに映画を続けるか。生まれた映画はまごうことなき「アンダーグラウンド映画」。モー・メイ・ザチの『供物』がドイツのオーバーハウゼン短編映画祭で上映されるなど、世界的にも注目され始めている。



Hello World!

- Hello World! [Thant Si Thu Bo / digital / 13min. / 2022 / Myanmar]
- The Mute [Wai Mar Nyunt / digital / 28min. / 2022 / Myanmar]
- The Altar [Moe Myat May Zarchi / digital / 10min. / 2022 / Myanmar]
- Eclipse [Lin Htet Aung / digital / 35min. / 2022 / Myanmar]
- Light matter [Gu Gu / digital / 15min. / 2022 / Myanmar]
- Mental Landscape [Sai Kong Kham / digital / 7min. / 2022 / Myanmar]

## H4 Can Movie Be Made Anywhere? —F filmmaking under Crisis Conditions

● Symposium ● 90 min. GI 2nd Oct. | 15:30

Guests Moe Myat May Zarchi (3-ACT), Vladimir NADEIN (filmmaker, curator), Mugabo BARITEREGA (filmmaker), SEI Keiko (curator, writer)

司会者 SEI Keiko (curator, writer)

Venue Goethe-institut Tokyo

\* Admission Free. ただし、IFF2023のいずれかの上映プログラムのチケットもしくは半券、あるいはIFF2023公式カタログをご提示ください。

## H1 Filmmaking in Hong Kong —1 Tales from the High Castle

8 films | 77min. IF 2nd Oct. | 13:00

Curator IP Yuk Yiu

香港在住のアーティストたちの日常から、現在の街の社会地理的な風景/状況を映し出す最新の短編映像集。技法は多様だが、どの作品も日記的なアプローチによる一人称的視点を用い、急激に変容する土地に対する証言者となる。ある場所の鮮烈なポートレートを通して、ありえたかもしれない今を夢想する、香港の最新作品をまとめた映像アンソロジー。



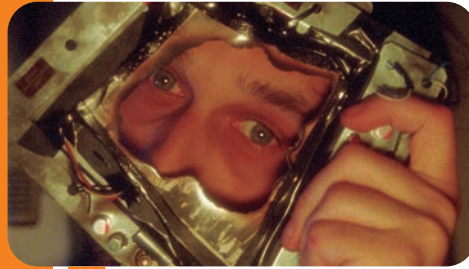
My Dear Son

- You build a home in my mind [LEE Yuk-ki Florence / digital / 5min. / 2023 (Hong Kong)]
- My Bathtub is Linked to the Sea [TY Lok Yi / digital / 6min. / 2023 (Hong Kong)]
- TWENTYTWO [Max HATTLER / digital / 7min. / 2023 (Hong Kong)]
- My Dear Son [Lilian FU / digital / 9min. / 2022 (Hong Kong)]
- View on Shek Kip Mei Park [Tamas WALICZKY / digital / 3min. / 2016-2021 (Hong Kong)]
- Self Portrait with Food [Tamas WALICZKY / digital / 3min. / 2022 (Hong Kong)]
- As I Imagine My Body Moving [Elysa WENDI / digital / 30min. / 2021-2022 (Hong Kong)]
- Signal 8 [Simon LIU / digital / 14min. / 2019 (Hong Kong)]

## H2 Russia "Confrontation with the Motherland"

3 films | 81 min. GI 30th Sep. | 13:30 GI 2nd Oct. | 11:00

Curator Vladimir Nadein



DVA

若者の心情を虚飾なく捉えたホームムービー的作品『スティル・フリー』、災害の予感の中で生きる人々をディストピアSFのスタイルで描き、ロシアの不条理な政治的状況を反映させた『DVA』を上映。

- No nation without culture [Vladlena SANDU / digital / 17min. / 2022 / Netherlands, Russia]
- Still Free [Vadim KOSTROV / digital / 31min. / 2023 / Russia]
- DVA [Alexandra KARELINA / digital / 33min. / 2022 / Russia]

2022年2月のウクライナ戦争勃発以降、制作と発表の自由を求めて国外に出たロシアの映画作家を特集。彼らの視点で見つめた祖国・ロシアとは。

ウクライナ侵襲から1年半が過ぎた。戦争に反対し、国外へと出たロシアの映像作家はロシアの現在をどのように描くのか。プーチンやカディロフの肖像にあふれるチェチェンの街頭をカメラに収めた『文化なくして国家なし』、兵役を目前に控えた

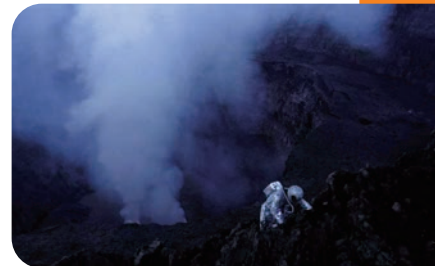
## H3 Democratic Republic of the Congo "Congo Sasa"

3 films | 74 min. GI 1st Oct. | 11:00 GI 2nd Oct. | 13:30

Curator Leo NELKI

長年紛争の舞台となっているコンゴ民主共和国東部の都市ゴマ。クリシェを乗り越えアフリカのイメージを刷新する鮮烈な実験的映像作品を紹介する。

ニリヤゴゴ火山噴火後の荒地に降り立つ“異人”を主人公に、アフロ・フューチャリズム的想像力でコンゴ社会を描きロカルノ映画祭で受賞した『光明を与える』。環境破壊、軍事的脅威、その中で育った子供たちが強烈にぶつかり合うモンタージュ『ここ』。混沌としたゴマの街角を夢遊病的なカメラで活写し、そこにNGOや国際協力組織という“新しい植民地主義”への問いかけの意識が流れ込む『ムワナ・ボ』。パワフルな3作品。



Mulika

- Mulika [Maisha MAENE / digital / 14min. / 2022 / Democratic Republic of the Congo]
- APA [Maisha MAENE + Leo NELKI / digital / 3min. / 2021 / Democratic Republic of the Congo]
- Mwana Pwo [Mugabo BARITEREGA / digital / 57min. / 2019 / Democratic Republic of the Congo]

## H2 Filmmaking in Hong Kong —2 Plastic landscapes, fallen skies

—six films by Yuk-Yiu

6 films | 86 min. IF 3rd Oct. | 13:00

風景を媒体とするマルチメディア・アーティスト、イップ・ユック＝ユーの映像集。イップ・ユック＝ユー作品における中心的なテーマは風景である。観察、記録、流用、様々な空間におけるパフォーマンスを通し、風景をメタファー、ドラマ、洞察、証言の媒介とする。作者の20年にわたる創作活動からのセレクション。



Notes before the Revolution

- Another Day of Depression in Kowloon [digital / 15min. / 2012 / Hong Kong]
  - The Plastic Garden [digital / 11min. / 2013 / Hong Kong]
  - Clouds Fall [digital / 28min. / 2014 / Hong Kong]
  - Panic Room [digital / 6min. / 2011 / Hong Kong]
  - Notes before the Revolution [16mm / 15min. / 1998 / Hong Kong]
  - In the long run [digital / 11min. / 2023 / Hong Kong]
- \* All works is created by IP Yuk-Yiu

## H3 Mapping Experimental Film in East Asia

● Symposium ● 90 min.

IF 3F 3rd Oct. | 15:30

日々変容していく映像の上映・展示の形。コロナパンデミック・政治的気候の変化などを受けた東アジアの映像の環境について、加えてこれから東アジア間のネットワークングについて模索する。

Guests IP Yuk Yiu [Artist | Hong Kong] + KIKI Fung [Movie Programmer | Hong Kong] 他

Moderator YAMASHITA Koyo [Image Forum Festival Director]

Venue Image Forum 3F "Terayama Shuji"

\* Admission Free. ただし、IFF2023のいずれかの上映プログラムのチケットもしくは半券、あるいはIFF2023公式カタログをご提示ください。

**J** Everyday Wonders——1  
Things and Wonders:  
—Workshop and Screening of Wroks by Anna VASOF

1 film | 60 min. IF 2nd Oct. | 21:00 IF 6th Oct. | 16:30



日用品の誤用……。レディメイドをミスメイク。驚きと笑いのアンナ・ファゾフ短編映画集。日々の生活の身の回りにある品々には、実はウィットが潜んでいる……。オーストリアの建築家/メディア・アーティストのアンナ・ファゾフは、日用品をあえて誤用し、あふれる機知を通し、一方で、アニメーションの原理を利用するなどして世界の別の見方を提示する。40本の超短編映画のアンソロジー。

協賛 オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム

Things and Wonders [Anna VASOF / digital / 60min. / 2016-2022 / Austria]

**Workshop** Things and Wonders

Oct 3rd Oct. | 11:00 ▶ 19:00

ハイ・アートとしての日用品。日用品の用途、限界、形はいかなる物語を生むのか。見慣れた日々の風景を全く別の視点で見つめ、日常がいかにかーティスティックな表現の源であるか、私たちの身の回りが、終わらない思考・インスピレーション・芸術的な実験の場になりうるかを探求するワークショップ。

[何をやるか?]参加者はテーブルに載せられた日用品をピックアップし、以下のキーワードに沿ってアクションをする。そしてそれを短編映画として記録する。以下は物体に芸術的な意味を与えるアクションのリスト——

- 変容させる ○混ぜ合わせる ○再創造する(別のスケールで、別の素材で)
- 誤用する ○再配置する ○アニメートする

\*撮影・編集用にカメラ、三脚、ノートPCがあれば持参してください。スマートフォンをお持ちください。

Date Tuesday, 3rd October 11:00 ▶ 19:00 [Reception open: 10:30]

Venue Goethe-Institut Tokyo

Participation Fee ¥3,000 (10/2の『シングス&ワンダース』の上映をご覧の上でご参加いただくことをお勧めします。半券ご提示の方は2,000円) [ワークショップは英語で行われますが、日本語通訳が付きま]

**K** Everyday Wonders——2

3 films | 60 min. IF 2nd Oct. | 15:30 IF 6th Oct. | 21:00

隣人・日用品など身の回りを映像トリックで異化。驚きの視覚体験の傑作3本。

地球温暖化による氷河溶解の最前線、スイス・アルプスの村にパラシュートで降り立った男。男がその危機的な状況に意外な方法で対峙するドキュフィクション『落ちていく』。部屋を埋めるオブジェから見えない力を引き出し運動させるアニメーション『飛行停止』。ソマリア難民の隣人アブディの半生を、彼の工房内に作ったミニチュアジオラマで再現するドキュアニメ『隣人アブディ』。各地の映画祭で話題の最新映像集。



On its Way Down

- On its Way Down [Sebastian SCHAEVERS / digital / 23min. / 2022 / Belgium+Switzerland]
- Arrest in Flight [Adrian FLURY / digital / 8min. / 2021 / Switzerland]
- Neighbour Abdi [Douwe DIJKSTRA / digital / 29min. / 2022 / Netherlands]

# Japan Experimental Film Database Project

**L** Patrice KIRCHHOFER  
—The Linguistics of Movement

6 films | 61 min. IF 30th Sep. | 21:00 IF 3rd Oct. | 15:30

フランス実験映画において最も謎めいた作家パトリス・キルシュオフェール(1953-2019)を日本初特集。

「映画監督、ミュージシャン、画家、作家、ミーティングのオーガナイザー」を自称したキルシュオフェールは、言語学・構造主義に影響を受け、映画の運動的側面と原初的体験を追求した。日本では未紹介のフランス実験映画70年代の代表的人物を特集したプログラム。

“断続的な動きの凍結、原子の輝きの色、光に攻撃されているような人物、恐ろしい音楽、世界の終わりの予感、こうしたもの全てが『色相』をフランス前衛映画における最も強力な1本にしている”——ドミニク・ノゲース(作家)

Chromaticité I



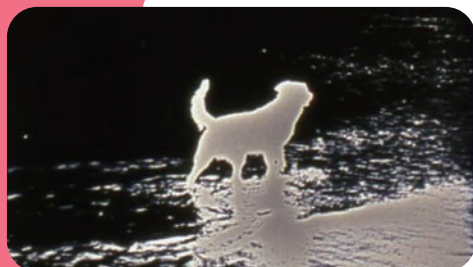
- Densité Optique I [16mm (digital ver.) / 23min. / 1977]
- Chromaticité I [16mm (digital ver.) / 11min. / 1977]
- Sensitométrie I [16mm (digital ver.) / 3min. / 1973]
- Sensitométrie III [16mm (digital ver.) / 12min. / 1975]
- Sensitométrie VII [16mm (digital ver.) / 6min. / 1976]
- Anorexie IV [16mm (digital ver.) / 6min. / 1979]

\* All works is created by Patrice KIRCHHOFER

**M1** THE ASTONISHING FLAME  
16mm Restorations from the Academy Film Archive

10 films | 87 min. IF 3rd Oct. | 21:00 IF 5th Oct. | 13:00

Curator Mark Toscano



Waterfall

アカデミー・フィルム・アーカイブによって修復された、アメリカ西海岸70年代を代表する実験映画セレクション。

毎年受賞作が話題となるアカデミー賞を主催するアメリカの映画芸術科学アカデミーは、映画の保存・修復も行っている。その範疇はいわゆるメジャー映画や商業映画だけではなく、アヴァンギャルド映画にも及ぶ。特に力を入れているのが地元・ロサンゼルス近郊の作家たちの作品。その中から日本初紹介の作家を含む70~80年代珠玉のプログラムを上映。

- Waterfall [Chick STRAND / 16mm / 3min. / 1968 / US]
- Roseblood [Sharon COUZIN / 16mm / 7min. / 1974 / US]
- Pasadena Freeway Stills [Gary BEYDLER / 16mm / 6min. / 1974 / US]
- Place Mattes [Barbara HAMMER / 16mm / 8min. / 1987 / US]
- Primary Stimulus [Robert RUSSETT / 16mm / 8min. / 1977(1988) / US]
- Analogies [Peter ROSE / 16mm / 14min. / 1977 / US]
- Twelve (The First Three Parts...) [Beth BLOCK / 16mm / 9min. / 1977 / US]
- Panorama [Michael RUDNICK / 16mm / 12min. / 1982 / US]
- Loose Corner [Anita THACHER / 16mm / 10min. / 1986 / US]
- Throbs [Fred WORDEN / 16mm / 7min. / 1972 / US]
- “Yes, I said Yes, I Will, Yes” [Phil SOLOMON / 16mm / 3min. / 1999 / US]

**M2** TROUBLE IN THE IMAGE  
—EXPERIMENTAL FILM AND PRESERVATION

Workshop 90 min. IF 2nd Oct. | 18:30

個人映画・アヴァンギャルド映画を保存する際の困難さとは? 作家がフィルムに直接ペイントしたり、切り貼りをしたりした作品の修復はどのように? スタン・ブラッケー、パット・オニール、スーザン・ビットらアメリカを代表するアーティストたちの映画作品を修復してきた映画芸術科学アカデミーのマーク・トスカノが、実際の作品を見せながらその仕事を紹介する。

**N** Remembering Micheal SNOW  
—“La Région centrale”

1 film | 180 min. IF 6th Oct. | 13:00

“私はプロフェッショナルではない。私の絵は映画作家が描いたものであり、彫刻はミュージシャンによるもの。映画は画家によるもので、音楽は映画作家により、絵は彫刻家により、彫刻は映画作家により、映画はミュージシャンにより、音楽は彫刻家によるものである”——マイケル・スノウ  
「構造映画」の代表的存在とされ、映画の超ミニマリスト的アプローチで知られるが、内容は実に遊戯的でユーモアに富むマイケル・スノウの作品集。その代表作の一本として映画史に名を轟かせる『セントラル・リージョン(中央地帯)』を、今年1月6日に亡くなったマイケル・スノウを追悼し、上映する。



La Région centrale [Michael SNOW / 16mm / 180min. / 1977 / Canada]

O<sub>1</sub>

## AV-arkki: Dozen Treasures

12 films | 72 min.

IF 3rd Oct. | 18:30

Curator Tytti Rantanen

実験映画・ビデオアートを跨ぐアーカイブとして1989年にヘルシンキに設立された組織AV-Arkki。60年代から現在に至る、フィルムとビデオアート、デジタル作品をつなぐフィンランド実験映像の代表的作品をセレクション。

- (Dis)Integrator [Juha van INGEN / digital / 4min. / 1992 / Finland]
- Kiila: Verbranntes Land [Mika TAANILA / digital / 7min. / 2002 / Finland]
- Flora & Fauna [Erkki KURENNIEMI / 16mm (digital ver.) / 6min. / 1965 / Finland]
- Kinetic Pictures [Eino RUUTSALO / 16mm (digital ver.) / 5min. / 1962 / Finland]
- Haarband [Mervi KYTÖSALMI-BUHL / digital / 4min. / 1982 / Germany]
- Pyykki-teos [Anneli NYGREN / digital / 3min. / 1992 / Finland]
- Milena's Journey [Marikki HAKOLA / digital / 5min. / 1989 / Finland]
- Dyve In [Rosa LIKSOM / 16mm (digital ver.) / 6min. / 1990 / Finland]
- Masa [Anssi KASITONNI / 16mm (digital ver.) / 11min. / 2009 / Finland]
- A Finnish Fable 2011 [Niina SUOMINEN / digital / 6min. / 2011 / Finland]
- Lasso [Salla TYKKÄ / digital / 4min. / 2000 / Finland]
- Birds in the Earth [Marja HELANDER / digital / 11min. / 2018 / Finland]



Masa

O<sub>2</sub>

## The Preservation and Utilization of Experimental Film: Finland and France

Symposium 90 min.

IF 5th Oct. | 18:00

Guest Tytti Rantanen [AV-ARKKI | Finland]  
+ Emmanuel LEFRANT [Light Cone | France]

Moderator KADOWAKI Kenji [Image Forum Festival Director]

Venue Image Forum 3F "Terayama Shuji"

\* Admission Free. ただし、IFF2023のいずれかの上映プログラムのチケットもしくは半券、あるいはIFF2023公式カタログをご提示ください。

P

Filmmakers in focus

## A Man Playing Movie——OKUYAMA Jun'ichi Retrospective

1964年制作の『MU』を皮切りに、実験映画ひとすじに60年!

フィルムや映画の構造そのものをテーマに作品を作り続けてきた奥山順市のパフォーマンス、展示も含む大特集。

\*作者の都合により内容に変更が生じる場合があります。

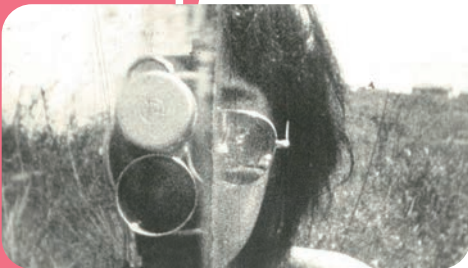
P<sub>1</sub>

## Early works and "Motion Picture Demolition Plan"

8 films | 70 min.

IF 1st Oct. | 21:00

最初期の作品『MU』と『BANG VOYAGE』の他、奥山が作風を確立した「映画解体計画」の作品を上映。写真ネガを上映してしまう『Frameless35』、フィルムが切れる上映中の事故をライブとして作品化した『切断』(収録版で上映)、映写機の熱でフィルムを溶かしながら上映する『No Perforations』(収録版で上映)など、フィルム上映のタブーやアクシデントを作品化し、奥山順市の存在を世に知らしめた作品群だ。



Cut-Off Movie

- MU [16mm ver. (original format: Double 8) / 3min. / 1964]
- BANG VOYAGE [16mm / 18min. / 1967]
- Frameless 35 [16mm ver. / 3min. / 1968]
- Cut-Off Movie (recorded ver.) [16mm / 15min. / 1969]
- Outrage [16mm / 3min. / 1970]
- No Perforations (recorded ver.) [16mm / 10min. / 1971]
- Frameless 16 [16mm ver. / 3min. / 1971]
- Paper Film (recorded ver.) [16mm / 15min. / 1972]

P<sub>2</sub>

## "Motion Picture Composition Plan"——1

10 films | About 80 min.

IF 4th Oct. | 13:00

「映画解体計画」の後やってきたスランプの後に完成させ、「映画組成計画」のスタートであるとともに、奥山の代表作となった『Le Cinéma (映画)』、映像がダイレクトに音を発する『我が映画旋律』、カメラを使わずに現像処理のみで制作された『浸透画』などの代表作に加え、新作パフォーマンスも交えたプログラム。70年代以降久しぶりの再映となる伝説的な『5mmフィルム』は必見!

- Le Cinéma [16mm / 5min. / 1975]
- My Movie Melodies [35mm / 7min. / 1980]
- Movie Watching [16mm / 12min. / 1982]
- Keeping The Time of Photograph [16mm / 6min. / 1983]
- A Man Playing Movie [16mm/10min./1986-87]
- Osmography [16mm / 9min. / 1994]
- Stop Motion [16mm / 10min. / 1995]
- Inga no sekai / Touch of Inga [16mm / 11min. / 1996]
- private version / walking person [16mm / 1min. / 2023] \*
- 5mm film (2023 reprinted edition) [16mm / 3min. / 1975-2023] \*



private version / walking person

\*Live performance using a hand crank projector.

P<sub>3</sub>

## "Motion Picture Composition Plan"——2

9 films | About 70 min.

IF 6th Oct. | 18:30

ループさせたフィルムを超多重露光する『時の流れに乗せて』、フィルムにおける映像と音の構造的なズレをテーマにした『Sync pic あっ! 画を見てから音が聴こえる』、ダブル・エイトのフィルムを2本編集して16ミリへと回帰させる『W8は16ミリ』、現像の薬品をフィルムに直接ペイントした『まげるな』など、映画の構造への探求はさらに広がりを見せる。

- The Time Slit [16mm / 6min. / 1989]
- Spend My Days in Movie [video / 7min. / 1992]
- My Self-Timer [16mm / 7min. / 1997]
- Sync Pic [16mm / 14min. / 2001]
- Half DEV. [35mm / 5min. / 2002]
- Regular 8 is 16mm Film [16mm / 11min. / 2006]
- MAZE LUNA (aka Don't Mix it) [16mm (video ver.) / 5min. / 2008]
- Double 8 projecting at 9.5mm [9.5mm / 5min. / 2023] \*
- being painted 9.5mm [9.5mm / 5min. / 2023] \*



being painted 9.5mm

\*Live performance using a hand crank projector.

P<sub>4</sub>

## SWING! OKUYAMA Jun'ichi

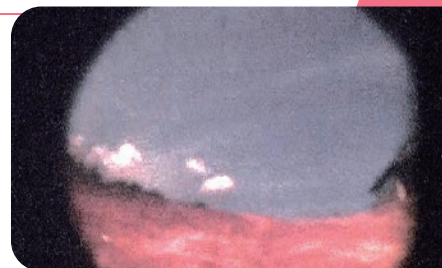
Exhibition

Feb 9/30 ▶ 10/6 | 13:00 ▶ 20:00

1998年の東京都写真美術館での個展以来の展示となる『SWING MOVIE』はフィルムインスタレーション／パフォーマンスの先駆け。フィルムの映像が会場中を「スウィング」する! また、近年奥山が手掛ける「映画発掘計画」の成果として、幻の映画フォーマット、17.5ミリフィルムや、映画発明史の中の失われた存在に光を当てた作品をあわせて展示する。

Venue Feb gallery Tokyo

- SWING MOVIE [Double 8 (projected in digital format) / 30min. / 1975]  
\*9/30、10/6は15:00よりオリジナルのダブル・エイトでフィルムインスタレーション／パフォーマンスあり
- A schema of 17.5mm movie film formats [digital / 4min. / 2020]  
\*Exhibited in multiscreen.
- private version / LE PRINCE HOP [digital / 4min. / 2023]
- その他、奥山順市秘蔵のレア機材を多数展示!



SWING MOVIE

プログラムL~Pはイメージフォーラムが主催する「日本実験映画データベースプロジェクト」として実施します。

助成——公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京(東京都芸術文化創造発信助成(長期助成))

ARTS COUNCIL TOKYO

# Q Fall Guys

Installation

Venue Image Forum 1F lobby

本作は、映像とその装置(支持体)について、日用品や家具と同じ「モノ」として批評するビデオ・インスタレーションのシリーズの新作である。前回の「イメージフォーラム・フェスティバル2022」では、型落ちで低解像度となった液晶ビデオモニターを、情報や物語を配達する容器(キャリア)に喩えるビデオ彫刻「入れ物についての考察」を発表した。今回はそれをサイトスペシフィックに展開する。

●Fall Guys [ITO Ryusuke / mixed media, projector / 2023]



## On Screen LIVE

### LIVE1

#### On Sreen LIVE——1 "Music as film" Realtime voice-over and remix

30th Sep. | 18:30

21世紀の活弁。声と字幕で綴られる映画偽史映画『Music as film』のサウンドトラックを、リアルタイムでリミックスし、ヴォイス・パフォーマンスを重ねる至芸。2020年早春、ロックダウン直前のベルリンで、スクワット(不法占拠)由来の文化拠点にあるマイクロシネアター「LICHTBLICK-KINO」で行われたパフォーマンスの日本初演。

●Music as film [SHICHIKI Kei / digital / 54min. / 2016-2023]

Performance ADACHI Tomomi



### LIVE2

#### On Screen LIVE——2 Secrets of a Soul

福岡市総合図書館

1st Oct. | 18:30

妻を殺すかもしれない、という説明不能な脅迫観念に取り憑かれた博士が、精神分析家を雇いセラピーを受ける。フロイトの精神分析の理論をシュルレアリスムとドイツ表現主義的手法で想像力豊かに表現したパブストの傑作を、即興音楽の大上・外山・堺原のライブ演奏付きで上映。

共催 福岡市総合図書館

●Secrets of a Soul [G. W. PABST / 16mm / 95min. / 1926 / Germany]

Performance DAIJU Ryuichi [guitar] × SOTOYAMA AKIRA [drums] × SAKAKIBARA Takuto [baritone sax] / alto sax]



渋谷上空229mの音楽映画体験

## ROOFTOP "LIVE" THEATER

世界の音楽映画を屋上の開放感と大音量で自由に楽しむ屋上上映プログラム。渋谷から映画で世界とつながる。いま見られるべき世界の音楽映画をセレクトし、360度のオープンエアの空間を自由に楽しむ上映イベントを今年も開催。イメージフォーラム・フェスティバルとSHIBUYA SKYが音楽映画の新たな楽しみ方を提示します。



### SKY1

#### ROOFTOP "LIVE" THEATER——1 Bring Minyo Back!

民謡クルセイダースメンバーによるライブあり SKY 5th Oct. | 19:30



失われた音楽「民謡」を人々に取り戻すため、クンピア・ラテン・アフロ・レゲエなど様々な音楽のエッセンスを取り入れて生まれ変わらせるバンド、民謡クルセイダースに着したドキュメンタリー。

東京・福生を拠点に活動するバンド、民謡クルセイダースはアフロやラテンの要素を取り入れ、民謡をアレンジ、世界中でファンを増やしている。その姿勢に衝撃を受けた監督が彼らに5年間密着。南米コロンビアを含む世界ツアーに

も同行。音楽評論家のインタビューも交え、「民謡とは何か」を探求していく。

●Bring Minyo Back! [MORIWAKI Yuji / digital / 90min. / 2022 / Japan]  
配給 ALFAZBET

### SKY2

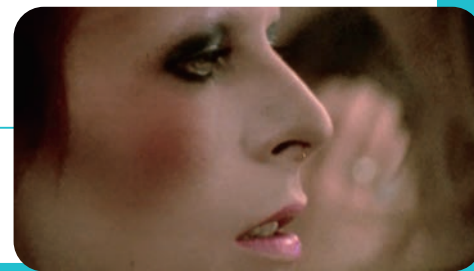
#### ROOFTOP "LIVE" THEATER——2 Ziggy Stardust and the Spiders from Mars

SKY 6th Oct. | 19:30

デイヴィッド・ボウイ(1947-2016)の伝説的なライブをドキュメントしたコンサート映画の傑作。異星からやってきたスーパースター「ジギー・スターダスト」の栄光と没落を描くというコンセプトのライブを、ダイレクト・シネマの旗手D.A.ベネベイカーが撮影した、1972年当時の「グラム・ロック」の頂点を捉えた映画史・ロック音楽史に残る音楽ドキュメンタリー。2002年に改めてプロデューサーのトニー・ビスコンティによってサウンドミックスされ、デジタルレストアされた。

●Ziggy Stardust and the Spiders from Mars [Donn Alan PENNEBAKER / digital / 90min. / 1973 / UK]

配給 オンリー・ハーツ



### SKY3

#### ROOFTOP "LIVE" THEATER——3 Gully Boy

SKY 7th Oct. | 19:30

インドのスラムで育った青年がラップと出会い人生を変えていく青春音楽映画。インドの大都市ムンバイを舞台に、実在するインドのラッパーたちの人生を描くサクセスストーリーで大勢のインドと日本の映画ファンの心を掴んだ音楽映画の快作を上映。プロデューサーのNASがモデルとなったラッパーたちと共作したエンドロール曲「Mere Gully Mein」も話題となった。

●Gully Boy [Zoya AKHTAR / digital / 154min. / 2018 / India]  
配給 ツイン



### SKY4

#### ROOFTOP "LIVE" THEATER——4 The Wonderful Kingdom of Papa Alaev

SKY 8th Oct. | 19:30

スチールタンバリンを駆使するタジキスタンの著名な民族音楽一家とその家族内の世代間騒動を描いたドキュメンタリー。

アラエフ一家は50年以上続く音楽一家。東ヨーロッパ、ユダヤ、ロマの音楽を影響の元にタジキスタンで、ソ連崩壊後はイスラエルを拠点に活動してきた。一家を取りまとめるパパは文句ないカリスマで独裁的。しかし、時代が変わるにつれて独立した考えを持つ娘らとの世代間の衝突もあらわになってくる。彼らの音楽活動はどのように続くのか?一家の変遷を追いかけるドキュメンタリー。

●The Wonderful Kingdom of Papa Alaev [Tal BARDA + Noam PINCHAS / digital / 74min / 2016 / Israel+France]



# 37th IMAGE FORUM FESTIVAL

## Image Forum Festival 2023 ..... Gathering Clouds

時代が大きく変転し、世界の映画づくりの状況も変わっている。自然災害や技術革新と、それに伴う社会・政治の変化。その影響で自由な映画作りが困難になり、海外あるいはアンダーグラウンドに身を移すことを余儀なくされている作家たちもいる。しかし、姿形を変えながら制作・上映を続けることで、作品と観客が新たに出会う可能性も生み出す。周縁に追われたものたちは雲のように離合集散し、地下に流れる水脈が繋がりがあい、映画を革新する力が育っていく。イメージフォーラム・フェスティバル2023では、そうした作品たちの最新状況を紹介する「ギャザリング・クラウド」を開催する。

	[SAT] 30th Sep.	[SUN] 1st Oct.	[MON] 2nd Oct.	[TUE] 3rd Oct.	[WED] 4th Oct.	[THU] 5th Oct.	[FRI] 6th Oct.	[SAT] 7th Oct.	[SUN] 8th Oct.
<b>Theatre Image Forum</b>									
13:00	A East Asian Experimental Competition 1 [85 min.]	D East Asian Experimental Competition 4 [85 min.]	h Hong Kong 1 [77 min.]	h Hong Kong 2 [86 min.]	P <sub>2</sub> OKUYAMA Jun'ichi 2 [80 min.]	M <sub>1</sub> THE ASTONISHING FRAME [87 min.]	N Remembering Michael SNOW [180 min.]	—	—
15:30	B East Asian Experimental Competition 2 [80 min.]	E East Asian Experimental Competition 5 [79 min.]	K Everyday Wonders 2 [60 min.]	L The Linguistics of Movement [61 min.]	D East Asian Experimental Competition 4 [85 min.]	C East Asian Experimental Competition 3 [87 min.]	J Everyday Wonders 1 [60 min.] *16:30 start	—	—
18:30	C East Asian Experimental Competition 3 [87 min.]	F East Asian Experimental Competition 6 [79 min.]	M <sub>2</sub> Workshop [90 min.]	O <sub>1</sub> Finland [72 min.]	E East Asian Experimental Competition 5 [79 min.]	A East Asian Experimental Competition 1 [85 min.]	P <sub>3</sub> OKUYAMA Jun'ich [70min.] +Award Ceremony	—	—
21:00	L The Linguistics of Movement [61 min.]	P <sub>1</sub> OKUYAMA Jun'ichi 1 [70 min.]	J Everyday Wonders 1 [60 min.]	M <sub>1</sub> THE ASTONISHING FRAME [87 min.]	F East Asian Experimental Competition 6 [79 min.]	B East Asian Experimental Competition 2 [80 min.]	K Everyday Wonders 2 [60 min.]	—	—
<b>Image Forum 3F "Terayama Shuji"</b>									
15:30	G East Asian Experimental Competition 7 [12:30~20:00]	G East Asian Experimental Competition 7 [12:30~20:00]	—	I <sub>3</sub> Symposium [90 min.]	—	—	—	—	—
18:00	—	—	CF <sub>1</sub>	CF <sub>2</sub>	CF <sub>3</sub>	O <sub>2</sub> Symposium [90 min.]	—	—	—
<b>Gotho-Institut Tokyo</b>									
11:00	H <sub>1</sub> Clouds 1 [108 min.]	H <sub>3</sub> Clouds 3 [74 min.]	H <sub>2</sub> Clouds 2 [81 min.]	—	—	—	—	—	—
13:30	H <sub>2</sub> Clouds 2 [81 min.]	H <sub>1</sub> Clouds 1 [108 min.]	H <sub>3</sub> Clouds 3 [74 min.]	J Things and Wonders Workshop [11:00~19:00]	—	—	—	—	—
15:30	—	—	H <sub>4</sub> Symposium [90 min.]	—	—	—	—	—	—
18:30	LIVE <sub>1</sub> [54min.]	LIVE <sub>2</sub> [95min.]	—	—	—	—	—	—	—
<b>Feb gallery Tokyo</b>									
13:30-20:00	P <sub>4</sub> Exhibition	P <sub>4</sub> Exhibition	P <sub>4</sub> Exhibition	P <sub>4</sub> Exhibition	P <sub>4</sub> Exhibition	P <sub>4</sub> Exhibition	P <sub>4</sub> Exhibition	—	—
<b>SHIBUYA SKY [渋谷スカイ]</b>									
19:30	—	—	—	—	SKY <sub>1</sub> [90 min.]	SKY <sub>2</sub> [90 min.]	SKY <sub>3</sub> [154 min.]	SKY <sub>4</sub> [74 min.]	—

### Cooking with Filmmakers

映画作家と料理を一緒に作って、食べて交流しよう。作家得意の料理を、作家持ち込みの映像を見ながら食べて語り合う。ざっばらんにここで話したことが作家の新たな作品のインスピレーションになるかも…。料理と映画をcookin'する。

**Venue** Image Forum 3F "Terayama Shuji" **Participation Fee** ¥2,000 (included material fee) **Capacity** 15 people \*作家との料理に参加するのはスペースの都合上、先着3名までとさせていただきます。\*IFF2023 Webサイトよりお申し込み下さい。

**CF<sub>1</sub>** | Cooking with Filmmakers—1  
Lim Kar Wai + Ba Kut Teh  
**IF3F** 2nd Oct. | 18:00

『あなたの微笑み』(2022)、『COME & GO カム・アンド・ゴー』(2021)で知られるマレーシア出身の日本映画監督リム・カーワイが、本場の肉骨茶作りを披露! 制作中の最新作『ディス・マジック・モーメント』のラフカットを見つつ、対話する。

**CF<sub>2</sub>** | Cooking with Filmmakers—2  
IP Yuk-Yiu + Hong Kong noodle  
**IF3F** 3rd Oct. | 18:00

香港の映像・マルチメディアシーンで活躍するマルチメディア・アーティスト、イップ・ユック＝ユーは知られざる食通であり喫茶店マニア。変わりゆく香港映像シーンを見つけてきたイップとこれからの行方について語り合う。

**CF<sub>3</sub>** | Cooking with Filmmakers—3  
Endo Mariko + Potato Rosti  
**IF3F** 4th Oct. | 18:00

『KUICHISAN』(2011)『TECHNOLOGY』(2016)などで日本のもっともエッジな映像作家として評価される遠藤麻衣子と、ポテトロスティを楽しむ。上映作品は未発表作品?

### TICKET [Tax Included]

#### Theatre Image Forum

- General ¥1,500 / Student ¥800 / Member ¥1,000
- 前売券=1回券1,200円 | 4回券4,000円
- \* 全席指定。チケットは上映日の3日前よりシアター・イメージフォーラムのオンラインチケット購入サイト、または劇場窓口で販売します。当日受付は各日10:30より行います。
- \* 1回券、4回券は上映日の3日前より劇場窓口のみで座席指定券と引き換えができます。

#### Goethe-Institut Tokyo

- General ¥1,500 / Student ¥800 / Member ¥1,000
- \* ON SCREEN LIVE is ¥2,800円 (Flat Fee)
- \* 自由席、整理番号制。各日10:30より受付開始。各回15分前に開場いたします。
- \* 「オン・スクリーンLIVE」を除き、前売券1回券、4回券もお使いいただけます。

#### Feb gallery Tokyo

- General ¥1,000 / Student ¥500 / Member ¥800
- \* 前売券1回券、4回券もお使いいただけますが、差額の返金はできません。

**Address** 4-8-25 Minami-aoyama, Minato-ku Tokyo

#### SHIBUYA SKY [渋谷スカイ]

- Adalt (over 18 years old) WEB Ticket ¥2,200
- \* 上映イベント当日のSHIBUYA SKY入場チケット、もしくは年間パスポートで上映映画をご覧いただけます。ご購入について詳しくは下記サイトをご覧ください。

**https://www.shibuya-scrabble-square.com/sky/ticket/**

- \* 「WEBチケット」は購入日の4週間先の日付まで販売しています。本イベント分は9月7日(木)より順次販売を開始します。
- \* 悪天候時、本イベントは中止いたします。予めご了承ください。
- \* シアター・イメージフォーラム、ゲーテ・インスティテュート東京での上映にはお使いいただけません。

**Address** 2-24-12 Shibuya, Shibuya-ku, Tokyo (Direct access from and right above Shibuya Station)

#### イメージフォーラム・フェスティバル2023

——関連企画  
「ジェームス・ベニング特集2023:アメリカ/風景/時間」

2023年10月7日(土)~10月13日(金)シアター・イメージフォーラムにて最新作『アレンズワース』(2022)を含む8本を日本初特集上映!!

- コピアボア・フィルム+ダグレオ出版
- \* IFF割引あり(イメージフォーラム・フェスティバル半券の窓口提示で、当日一般料金より200円引き)。



Image Forum Festival Office  
2-10-2 Shibuya, Shibuya-ku, Tokyo  
TEL +81-3-5766-0116  
[www.imageforumfestival.com](http://www.imageforumfestival.com)

### MAP

